



大番地事務局

バキルトル身業評了之日仕高院
カ

大限彦議
印用掛

平井

岩崎

岡田

八年三月廿日

114
A 2931



去年七八月中蒸氣船「子ウヨルク」^レ「バダ」^レ「チャイ
ナ」^レ「フレゴニア」^レ等ノ買賣ノ「^レ」ニ付キ閣下ニ書
ヲ呈シテ余カ趣意ヲ開明セシカ今又更ニ此事
ニ閣下ノ注意ヲラシ「^レ」ヲ請フ蓋シ其項閣下ニ
上申セシ所ニ據レハ當時買入タル螺旋蒸氣船
ノ代リニ「^レ」「バダ」及ヒ「^レ」「フレゴニア」^レノ二艘ヲ買
入レタル方更ニ都合宜シカル可ク然ル時ハ閣
下旅客等ノ信ヲ得テ上海ト日本ノ諸港トノ間
ノ貿易ヲ統制シ「^レ」「ゴスタリカ」及ヒ「^レ」「ゴールデン」^レ
「^レ」^レ「^レ」ノ二艘ヲ残シ置キ契約ノ如ク米利堅ノ郵

便物ヲ運漕セシムル時ハ閣下方今ニ於ケル如ク米國郵船ノ為メニ頤頑セラル、ノ憂ナカル可シ

米利堅ニ於テハ二箇ノ會社此ノ如ク互ニ相競フ時ハ莫大ノ金ヲ費ス可ク目テ閣下ハ太平洋郵船會社ト協議シテ船貨運賃ノ目錄ヲ定メ貴國郵船出帆ノ日ヲ變シテ土曜^日午後第四時ト為シ成ル可キ丈ケ速カニ「フレゴニア」及ヒ「バタ」ノ二艘ヲ買入後ニ米利堅ノ其方今契約ニ循^ル日本ノ國旗ニテ上海ト橫濱トノ間ニ郵便物

ヲ運漕スル「フレゴニア」及ヒ「バタ」ノ二艘ヲ買入ル、[「]閣下ノ為メニ都合宜シカルヘシ蓋シ日本ト條約ヲ結ビシ各國ハ日本ニ於テ其國內ノ郵便ノ事務[」]一切處置ス可キ權利ヲ容易ニ許認ス可ク目テ閣下太平洋郵船會社ノ從來ノ船貨ヲ三菱會社ニ於テ採用セニト欲シ給ハ、其当今直ニ「バタ」及ヒ「フレゴニア」ノ二艘ヲ賣拂フ可キ代金は米國政府ノ日本政府ト太平洋郵船會社ト上海橫濱兩地間ノ郵送ノ「」ニ付キ取結ビ

シ契約ノ残期間日本政府ニテ米國ノ郵便物ヲ
運漕スルトテ兼諾スルニ當リコストリカ¹及ヒ
ゴ¹ールデンエー¹ダノ二艘ヲ賣拂フ可キ代金ヲ
商議ス可シ

閣下若シ余ニ此事ヲ治定スルヲ任シ給ハレ余
カ閣下ノ為メ満足ナル様之ヲ成就ス可キ¹子
ウヨルク船買入ノ時ト同様タル可シ謹言

バチエールドル

大隈重信閣下

閣下試ニ貴國及ヒ其人民ノ方今ノ有様ト去
年間ノ有様トニ注意シ給フ時ハ貴國ノ平和ノ
藝術ニ進歩スル著ルキ目論見ニ適シタル¹明
ナリ而シテ方今貴國人民ノ怠惰ナル所以ハ¹間断
ナキ工業ノ欠ケタルニ在リテ真ニ貴國ヲ進歩
セシメント欲セハ先¹間断ナク其人民ヲ用フ
可キ新タル工業ナカル可カラズ貴國若シ毛
織ノ器械ヲ作りテ毛類ヲ輸入セハ¹貴國ニテ羊
ヲ畜シ其毛ヲ取り用フルニ至ル迄¹貴國ニテ其
陸海軍及ヒ人民ノ用フ可キ羅紗及ヒ¹ブランケ

ツトヲ織出シ又方今米ヲ作ルヨリモ更ニ多ク
ノ利益ヲ以テ麻苧木綿小麥ヲ作ルヲ得可ク
麻ヨリ麻布ヲ製シ麻種ヨリ油ヲ顯ル器械ヲ設
ケ木綿ヨリ反物及ヒ糸類ヲ製ス器械ヲ設ク可
ク又良好ノ小麥ハ其種子ト粉子トノ為メ多
量ニ作ルヲ要シ然ル上ニテ貴國ノ人民其方今
ノ飲食ト混シテ肉ト麥粉トヲ用フレハ其身体
ヲシテ壯健ナラシム可ク然ル時ハ此等ノ須要
品ヲ取寄ル為メ數百萬ノ金額ヲ外國ニ出スト
ナク貴國ノ新クナル工業ノ為メ數百萬ノ金額

ヲ得テ貴國人民ハ專ラ製造ノ業ヲ勉ムルニ至
ル可シ但シ貴國ハ水カニ富ミ且ツ後來夥多ノ
物産ヲ生スル時ハ處々ニ之ヲ賣捌ク可キ市場
アレハ日本人自カラ已レノ必要品ヲ製作シ若
シ已ムヲ得サル時ハ多量ノ保護稅ヲ賦課シテ
自國ノ製作ヲ保護スル日本ノ利益タル可シ
閣下右新クナル製造ノ日本ニ行ハル可キ旨ヲ
証スル為メ東京又ハ其他ノ地ニ手本トシテ磨
機ヲ設ケント欲シ給ハ、余閣下ノ求メニ應シ
悦テ閣下ヲ助ク可シ謹言

千八百七十四年

十一月廿三日東京ニ於テ

バチエールドル

大隈重信閣下

北京ニ於テ大久保閣下ノ臺灣事件御取扱以後
ハ第十月七日附ニテ閣下ヨリ御遣シノ御書翰
ノ如ク拙者ハ最早支那ニ滯留スルニ及ハスト
被存候ニ付キ^{注キ}最初ノ便船ニテ東京へ立帰リ申
ヘク候

閣下ヨリ電信ニテ此度大久保閣下ノ臺灣事件
取扱方ノ儀ニ就キ支那人ノ風説如何ナルヤノ
御尋ニ就キ其御返詞ハ本日既ニ差立テ申候
此度臺灣事件ニ就キ日本ト支那トノ間ニ起ル
ル紛紜ヲ公平ノ處置ヲ以テ静穩ニ治メタルハ閣

下ト大久保閣下ノ忠實報國ノ志ヨリ出タル支
ニレテ拙者ニ於テモ實ニ感心仕候
閣下ヨリ御送りノ拙者ヲ大久保閣下へ御引合
セノ御書翰ハ大久保閣下ノ臺灣へ御出立前ニ
御届申候謹言

一千八百七十四年十一月十一日

上海

大隈重信閣下

ジ、ウ、バ、チ、エ、ル、ド、ル

手紙ヲ以テ啓上致候然レハ鐵道請負人大家ノ
一人タルヘンリ、メーグスノ請負ニテ為セシ
工業ノ價ニ閣下ノ御注意アラントラ伏シテ乞
フメーグス氏数年前ニナリ、ボリナペーリユー
ニ於テ其政府ノ拂方引請ニテ取扱ヒタル金高
一億三千万弗ニ過ク
予謹シテ貴國政府ニテ請負ニテ鐵道建築ニ相
成候ヤラ伺フ鐵道ヲ建築ニ相成ルニ請負ニテ
ナセハ其工業速カニ終リ且ツ其費少ニミテ教
トナスニ足ル諸政府ノ經驗ニ請負建築ハ工

部省ノ建築ヨリ勝レリ工部省ニテ建築ニ成レ
ハ其費大ニシテ其成功遅シ而メ常ニ其費スル
ノ割合ヲ以テ其官吏ノ取ルヘトナスニ足ラス且
府ノ鐵道建築ノ方法ハ教ヘトナスニ足ラス且
ツ其費大ナリ此方法ニテ貴國ニテ鐵道建築ニ
相成ラハ無益ニ数百万金ヲ費スナリ

貴國ノ鐵道建築ヲシテ容易ナラシメザルハ其
費巨大ナルヲ以テナリ然レ共此鐵道請負人建
築ヲナセハ其費少ク且ツ其助ヲナス者少ク故
ニ給料甚ク減シ又無益ニ人使ハス使フ人ハ事

ニ熟練セル人而已且ツ已レモ亦熟練セル故ニ
工作ノ諸法ヲ知ル故ニ自ラ事ヲ取テ勉勵セザ
ルヲ得ス且ツ數度建築ニ從事セルヲ以テ如何
セハ工部省ノ官吏ノ為スヨリ費ヲ減ス可キヤ
ヲ知ル

若シ貴國政府ニテ鐵道建築ヲ請負ニテ為サシ
トツ好マレ同人ニ百ニ月キ七ノ利ノ拂方ノ閣
下ノ契約書ヲ与ヘ給ハハ閣下ノ好ニ應シテ何
レノ鐵道建築ニテモ閣下ト約定ヲ為スタメニ
最モ信ス可キ社中ヲ閣下ニ紹介仕ル可ク候

新鐵道建築ニ於テ其沿道ノ地價ヲ増シ其近傍ノ政府地ハ漸ニ價ヲ増シテ稅ヲ收ルル大ニ殖ユ可シ頻首

新鐵道建築ニ於テ其沿道ノ地價ヲ増シ其近傍ノ政府地ハ漸ニ價ヲ増シテ稅ヲ收ルル大ニ殖ユ可シ頻首

千八百七十四年九月廿二日東京ニ於テ

ジ、ウ、ハ、チ、ユ、ル、ド、ル

大隈重信閣下ニ呈ス

